

科目名	人間学概論Ⅴ（自然と人間）	副題	
担当者	石橋 哲成・外川 重信（オムニバス・一部共同）		
開講期	前期	単位数	2単位 配当年次 1・2年次
授業の概要	<p>本講義では、「自然」と「人間」の両者に関連させながら、「自然と人間形成」及び「自然体験」をテーマにして、理論と実践の両側面から考察する。</p> <p>石橋担当の講義では、ヨーロッパの近世におけるルソーやフレーベルの自然主義的教育論、さらにはヨーロッパと日本の近代において展開した新教育運動、とりわけ田園教育塾運動を考察することによって、自然と人間形成がどのように深く関わりあっているのかを探っていく。</p> <p>外川担当の講義では、4回の講義においては、自然体験の理論と方法について考察する。特に登山・冒険教育・キャンプなどの野外運動の実際とその課題について考察する。3回分に相当する学外授業においては、バリエーションルートを使った登山を通して、自然の中で仲間と共同生活を体験し、自然と里山、自然と登山、「自然」と人間との関係について考察する。</p> <p>最終回の石橋と外川の共同授業では、それまでの14回の授業をふり返り、総まとめをおこなったうえで、将来の「自然」と「人間」との課題をともに考えてみたい。</p>		
授業のねらい・到達目標	<p>1. 自然と人間の深い関わりについて理解する。</p> <p>2. 自然が人間形成に与える影響について理解する。</p> <p>3. 学外授業を通して、「自然」と「人間」との関係を過去と現在までを鳥瞰し、今後の関係を理解する。</p>		
1	「自然」と「人間形成」の関わりについて考える（石橋）		
2	ルソーにおける自然と人間形成（石橋）		
3	フレーベルにおける自然と人間形成（石橋）		
4	イギリスの新教育運動と自然（石橋）		
5	ドイツの新教育運動と自然（石橋）		
6	日本における新教育運動と自然（石橋）		
7	全人教育の場としての自然（石橋）		
8	自然体験の方法（外川）		
9	冒険教育の理論と課題（外川）		
10	野外運動（キャンプ）の理論と課題（外川）		
11	登山の理論と実際の方法と準備（外川）		
12	高尾山登山における日本文化と自然の融合（外川）*休日に振り替え授業をする。		
13	高尾山登山におけるバリエーションルートの歩行体験（外川）*休日に振り替え授業をする。		
14	高尾山登山における登山の技術（外川）*休日に振り替え授業をする。		
15	総まとめ、ならびに今後の自然と人間の課題を考える（石橋・外川）		
期末			
授業に関する連絡	本授業では講義や演習、さらには学外授業を取り入れて行う。演習・学外授業では、レポート・レジュメ作成を課する。		
評価方法及び評価基準	授業内で提出する小レポート（30%）・発表等（40%）・最終レポート（30%）を基にして評価する。		
事前・事後学習の内容	予習をしてから授業に臨むこと。また、授業後に反復学習をすること。安全な学外学習を行うための準備をすること。		
履修上の注意	自然と人間形成の関係、自然保護に問題意識をもって、本授業に臨み、主体的・積極的に議論に参加すること。学外授業の登山では、事前から健康に留意し、体力をつけておくこと。		
テキスト	石橋哲成「教育の場としての自然をどのように捉えるか」（『全人教育通論』玉川大学、1999）		
参考文献	星野敏男、金子和正、『野外教育の理論と実践』杏林書院、2011 ディックプラウティ等、『アドベンチャーグループカウンセリングの実践』みくに出版、1997		